

世界遺産ガイダンス施設 海の道むなかた館の展示更新方針 及び展示更新イメージについて

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

■ 目次

p1~3. 海の道むなかた館の展示更新に係る10方針

p4~7. 海の道むなかた館の展示（現状）

p8~12. 海の道むなかた館の展示更新イメージ

海の道むなかた館の展示更新に係る10方針

海の道むなかた館の展示更新に係る10方針

① 世界遺産としての価値を正しく伝える

- ・ 館の成り立ちと変遷に配慮しつつ、世界遺産のガイダンス施設としての展示を拡充する。
- ・ 構成遺産に潜在する物語をひもとき、施設としてメッセージを発信する。

② 世界中からのビジターを想定し、文字解説に頼りすぎない展示、ユニバーサル志向な展示を考案する

- ・ ビジュアルな表現や、情報を可視化するインフォグラフィック（イラスト、グラフ、地図などの視覚的要素を用いて情報を分かりやすく表現する手法）などを採用し、外国人や子供など多様な世代に見て分かる展示表現を目指す。

③ 五感に訴求する参加体験性の高いインタラクティブな展示づくりに務める

- ・ デジタル・テクノロジーやセンサーなどを用いるほか、アナログなハンズオン展示など、ビジターとのコミュニケーションを重視する双方向な展示体験を考案する。

④ 文字解説や映像等のキャプションは、多言語化を前提とした計画とする

- ・ 展示および展示解説のワークシートやデジタルデバイスなどを活用し、多言語化を促進を図る。
- ・ ウェブサイト等の海外に対して情報発信可能なメディアも同様とする。

⑤ インターネットおよびデータベース等のデジタルテクノロジーを活用し、施設内外に展示情報が共有される工夫を施す

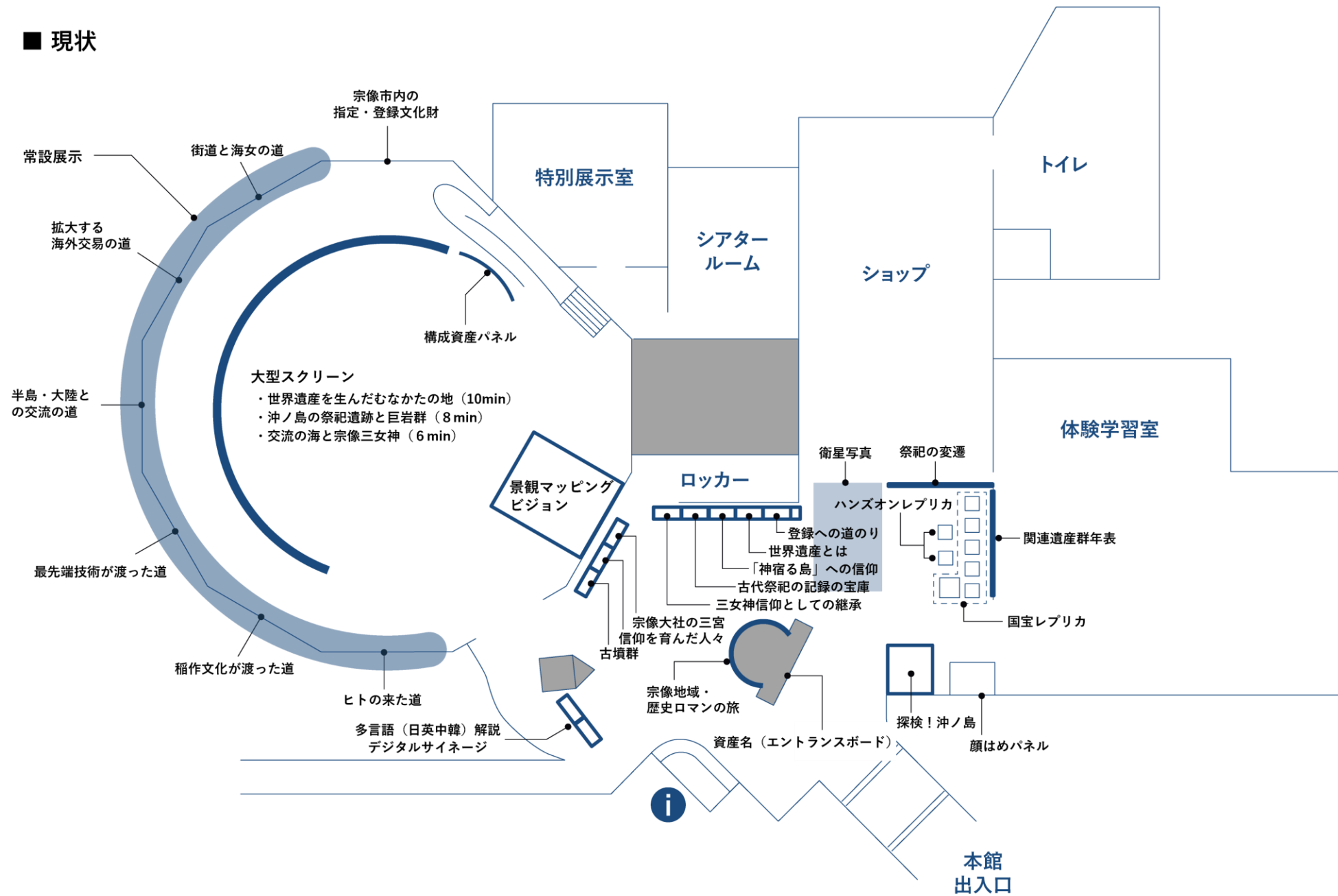
- ・ 館および関係施設等が保有する史料などのデジタルデータ化を推進し、データベースとして整理した上で、展示での学習やオンライン上での広報宣伝活動に利用する。

海の道むなかた館の展示更新に係る10方針

- ⑥ **ビジターの体験を通じた学びを館がキャッチアップし、未来へと継承していくための仕組みを構築する**
 - ・ 展示体験を通じた感想や意見など、ビジター自身が感じた想いを集約する。地域の環境文化を未来へと継承する活動に役立てる。
- ⑦ **関連遺産群および関係施設との連携や周遊のためのガイドツアーを計画し、ビジターが巡るための誘客に務める**
 - ・ 館独自の館内ツアーの他、特に宗像大社および神宝館との連携、関連遺産群への周遊を促す。
 - ・ 民間旅行会社によるツアーの企画指導が可能なガイドラインを策定する。
- ⑧ **地域学芸員によるインタープリテーションを活用した運営計画を再定義し、担当員の再教育を行う**
 - ・ ビジターのニーズを把握し、所用時間や関心領域などの要望に応じたガイドのあり方を計画する。⑦の事項を踏まえた周遊の促しも徹底する。
- ⑨ **館独自のコンテンツを活用したワークショップやアクティビティ・プログラムの開発を行う**
 - ・ 展示づくりにおける映像や写真画像、イラストなどを活用した館独自のオリジナルコンテンツづくりに尽力し、より魅力的なミュージアムグッズ開発などに適用する。
- ⑩ **展示を中心とした建築、内装家具、物販飲食、ウェブサイト等を含めた総合的なブランディングとして計画を立案する**
 - ・ 館をひとつの大きなブランドとして捉えることで、施設内の整理整頓から、スタッフのコスチューム、特に物販飲食の魅力度アップに徹底して取り組む。

海の道むなかた館の展示（現状）

■ 現状





① エントランス1



② エントランス2



③ 探検！バーチャル沖ノ島



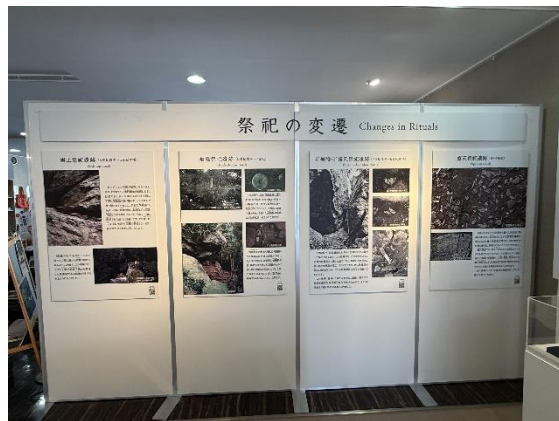
④ 体験学習室



⑤ ハンズオンレプリカ



⑥ 年表・国宝レプリカ



⑦ 祭祀の変遷



⑧ 売店



⑨ 世界遺産解説パネル1



⑩ 世界遺産解説パネル2



⑪ 宗像の文化財・パンフレット配架



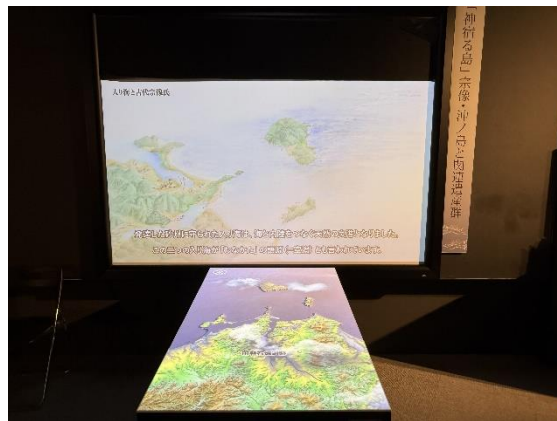
⑫ 多言語解説デジタルサイネージ



⑬ 歴史展示ホール入口



⑭ 大型スクリーン



⑮ 景観マッピングビジョン



⑯ 常設展示（稲作文化が渡った道）



⑰ 常設展示（最先端技術が渡った道）



⑱ 常設展示（半島・大陸との交流の道）



⑲ 常設展示（拡大する海外交易の道）



⑳ 常設展示（街道と海女の道）



㉑ 常設展示 全景



㉒ 宗像市内の指定・登録文化財 -7-



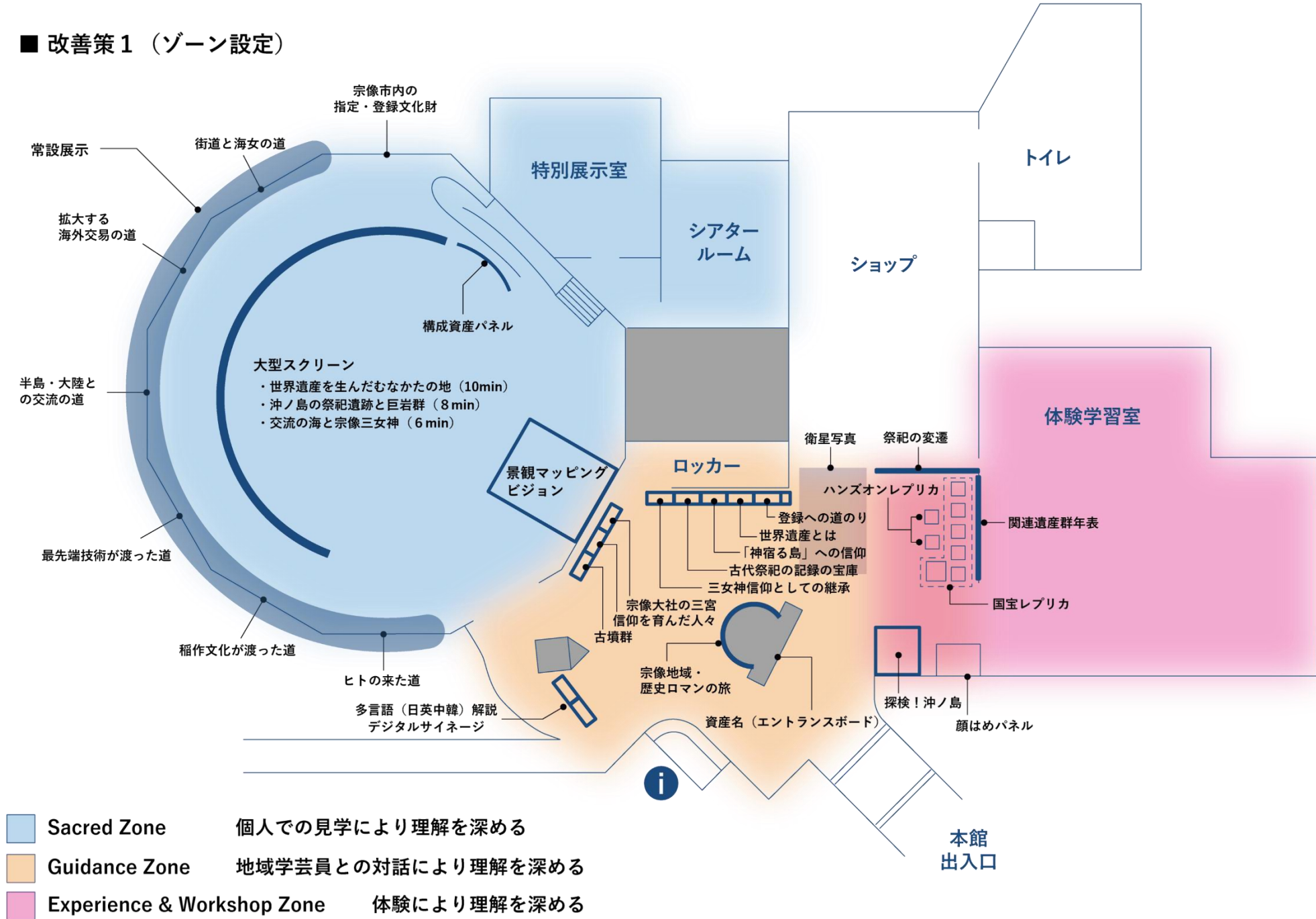
㉓ 特別展示室



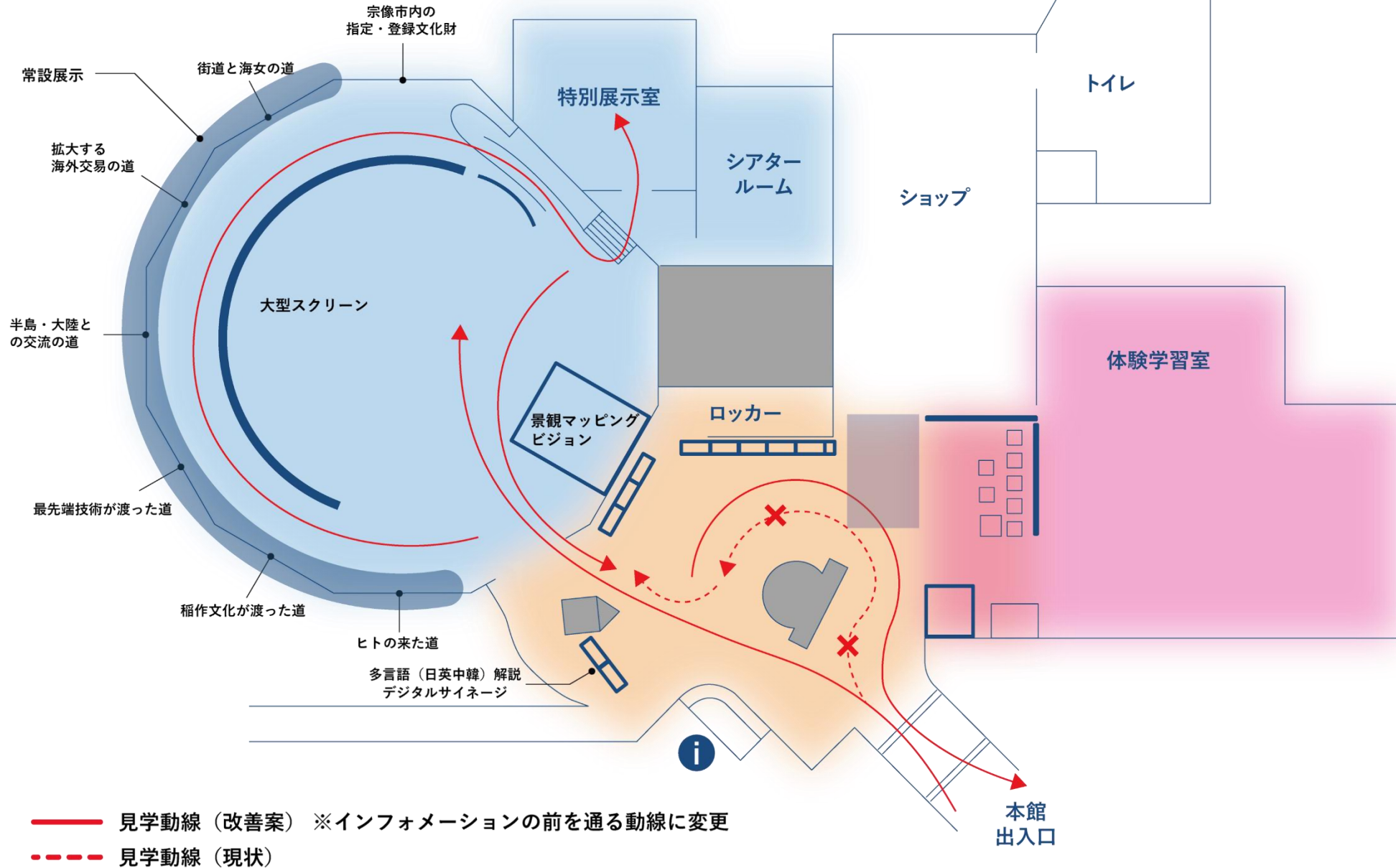
㉔ シアタールーム

海の道むなかた館の展示更新イメージ

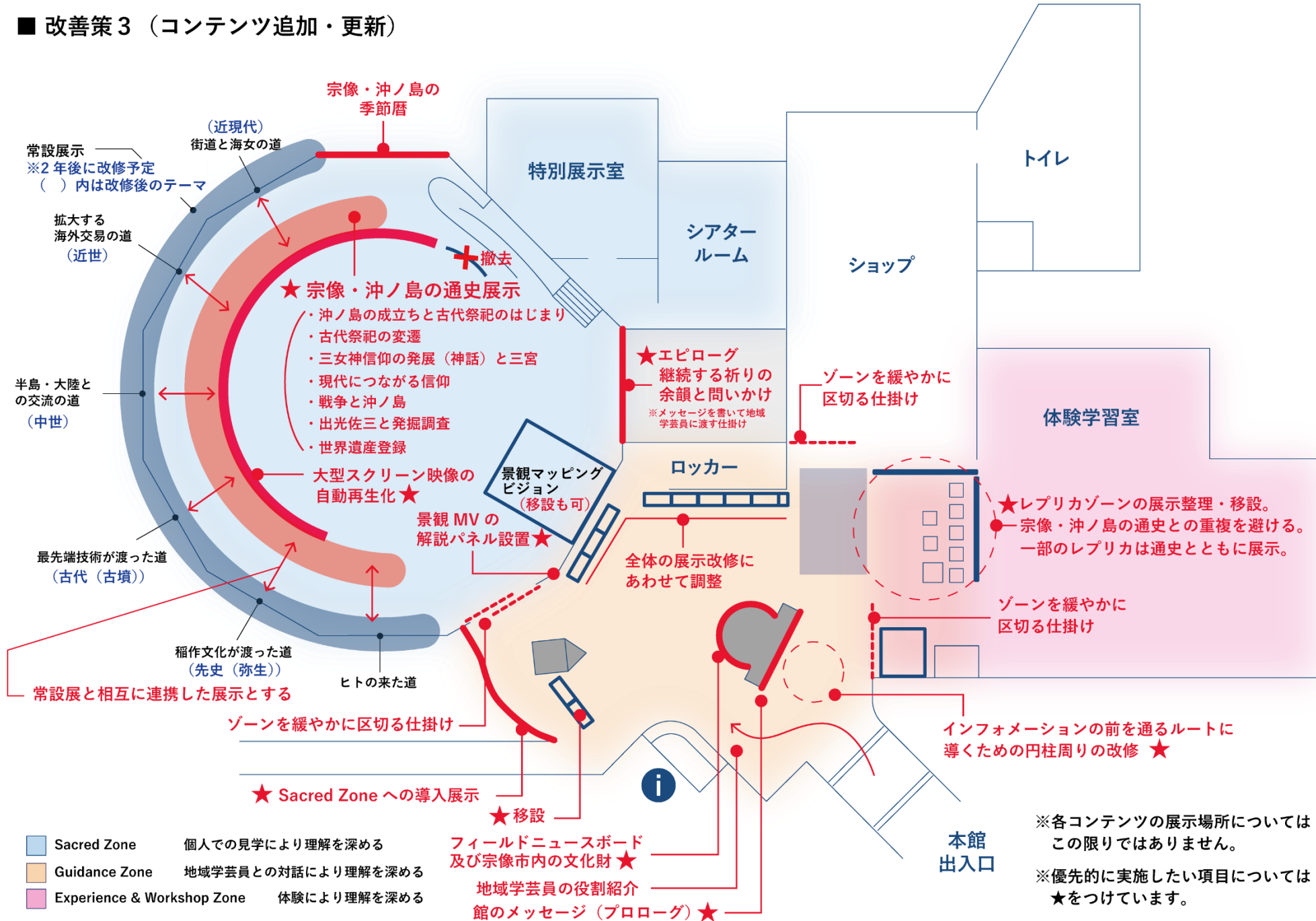
■ 改善策1（ゾーン設定）



■ 改善策2（ルート変更）



■ 改善策3（コンテンツ追加・更新）



■ 追加する展示のながれ

■ 1. むなかた館のメッセージと地域学芸員

- ・メッセージ（案）

「日本の祈りのルーツをたどる、1600年の時の航海。“神宿る島”から続く、祈りの道、交流の道、そして未来の道。」

- ・地域学芸員

養成講座を受講した市民によるボランティアガイド。
海の道むなかた館の展示企画、運絵、歴史観光案内などの役割を担う。

■ 2. 世界遺産と宗像・沖ノ島の意義

- ・世界遺産の意義

世界遺産リストは、地球上に多くの人々が暮らし、多様な文化や自然があることを知るための教科書。世界遺産活動の目的は、世界の多様性を守り、人々の心の中に平和のとりでを築くこと。

- ・「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の意義

日本の成り立ちに不可欠であった東アジア諸国との交流の実態と、日本特有の信仰形態の発展と継承を知ることができる。

■ 3. 宗像・沖ノ島の通史

- ・古代祭祀のはじまり～変遷～信仰の発展～現代につながる信仰～戦争と沖ノ島～出光佐三と発掘調査～世界遺産登録～その後

■ 4. 宗像・沖ノ島の季節歴

- ・周辺の豊かな自然環境に根ざした、宗像大社の神事や地元の信仰・祭り、季節ごとの宗像の食（魚・野菜・果物）

■ 5. 継続する祈りの余韻と問いかけ

- ・未来への取り組み

史跡整備・国宝修理・調査研究・守り伝える活動（海岸清掃など）・緩衝地帯の紹介

- ・わたしたちができること（メッセージ）

メッセージを書いて投稿できる仕組み。地域学芸員との交流のきっかけにもなるように。

■ 6. フィールドへの誘い（ニュースボード）

- ・各構成資産の見どころ紹介、アクセス